よつば通信

令和元年 11 月 22 日
魚津市立よつば小学校
１１月号
URL www.yotsuba-e.tym.ed.jp

「深い学び」に向けて

校長　宝　田　　哲

私たち教員は、自らの指導力の向上を図るために、多くの研修会に参加し、日々研究と修養に努めています。学校行事以外の理由で、子供たちの下校時刻が少し早い日があり「研修会」を行っていることは、保護者の皆さんもよくご存じですね。直近では 11 月６日を休業日として、丸１日の研修が行われたばかりです。

さて、この研修会について、「先生方は、いったい何をやっているのか？」という声をいただいたことがあります。研修内容は多岐にわたり、説明するには枚挙にいとまがありませんが、特に熱が入るのが子供たちへの授業をどのように工夫していくかという「授業改善」の領域です。教員は、子供たちの実態を踏まえたうえで、45 分間の授業で何をねらい、学習活動をどのように展開していくかを十分に練って、「多分、こういう意見が出るだろう。」「最終的にはこの考えに落ち着くだろう。」「こんな意見が出たら、こう問い返してみよう。」などと、毎時間周到なプランをもって授業に臨んでいるのですが、予定したとおりに授業が進むことは多くありません。子供たちの反応や考えは、いわゆる「想定外」で、「次の時間にもう一回話し合ってみよう。」という結果になることもしばしばです。「分析が甘い」と言われればそれまでなのですが・・・。そこで、私たちは、「どんな力を育てるために、どんな授業を仕組むのか。」「子供たちの考えをどのように取り上げ、広めたり、深めたりするのか。」といったことなどについて研修し、教師としての指導力を高めようと努めています。今年度は、来年度の新学習指導要領全面実施への準備と「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりが大きな課題で、日々研鑽の毎日です。

さて、先日他校の授業を参観する機会がありました。社会科で「みそ工場で働く人が伝統の味や技術を守りながら、原料を選んだりよりよい製法にこだわったりして製品を生産しようとしていること」を考える授業でした。最後まで参観することができなかったのですが、中盤では「値段が高くても、外国産より県内産の大豆が安全。」「昔からの作り方がおいしい。」「伝統を守って、誇りをもって作っている。」など、多くの意見が子供たちから出されていたので、授業のねらいが概ね達成されたと推測することができます。指導した教員の想定の範囲内で学習が進んだ授業と言えますが、私としては「資料を見ると値段が高いためか売り上げが落ちてきている。こだわり過ぎて工場がつぶれないのか。外国産の大豆を使うことも考えた方がよいのではないか。」と考えている子供がいて、その発言をもとに、この授業の更なる深まりを期待する部分がありました。指導者が、その子供の意見をどのように取り上げるかによって展開は全く違っていきますが、子供たち一人一人が自分の価値観に照らしながら、友達と意見を交わす中で葛藤し、やがてどのような考えに至るのか、そんな学習こそが「主体的・対話的で深い学び」につながると言えるでしょう。

学校が統合して一学級の児童数が 30 名以上という環境にある本校です。どの学級でも友達の多種多様な考えにふれながら、「深い学び」につながる授業を展開していきたいと考えています。

一口コラム

ある講演会で、「人は３つのことから学びます。さて何だと思いますか。」と質問されました。家族で話をしても面白いかと思います。「失敗は成功の母」の諺があるので失敗だろう。いや成功や経験等からだろうと考える方もいるかもしれません。　立命館アジア太平洋大学学長の出口治明氏によれば「本・人・旅」からだそうです。本にはあらゆる成功や失敗体験が書かれており、人一人の一生を擬似体験できます。人については、我以外皆師也でしょうか。　皆さんは旅から何を学びますか。